

前号に掲載した「パルモア学院創立 135 周年・法人解散記念礼拝」をご覧になった経済学部卒業生が、70 年以上前のパルモア学院と関西学院の思い出をご寄稿くださいました。

## パルモア学院主催の無料英語教室で身に付けた英語力

時 井 英 吉

1945（昭和 20）年 3 月の大空襲で神戸市内は壊滅的被害。3 年後、私は新制の太田中学 1 年生。校舎はガタガタ。靴などなく、下駄ばきで登校していました。

当時、日本は米軍（通称：進駐軍）の占領下。英語のわかる日本人はほとんどいませんでした。神戸市須磨区若宮小学校では、夕方 5 時から「英語教室」があり、授業料は無料で、若い大人たちは必死になって英語学習。主催はパルモア学院。パルモアとはいったい何のことか、当時は不明。大人に混じって私は最前列に座り、先生の英訳を聞くも、チンプンカンプン。文法では「大過去」と言われて、何のことがさっぱり理解困難。半年ごとに進級テストがあるも、まともな答案が書けず、残留組に入れられたものです。お経と同じで、3 年間それなりに通い、何となく英語に自信が付き、長田高校では 3 年間英語のテスト発表リストのトップ 10 にランクされていました。

関学は英語教育で有名と兄から聞き、入学すると、カナダ人宣教師のしゃべる英語がさっぱりわからず。また、運動部のお世話をされていた「児玉国之進先生」【写真右】の英作文は傑作でした。

出題：女にふられたからといってクヨクヨするな。

クラスの名簿を見て、先生から指名された者が教壇に上がり、白いチョークを渡され、「英語」に訳して黒板に書けとの指示。オロオロしていると、児玉先生曰く、「お前は中学で 3 年間、高校でも 3 年間、英語を勉強して、一体何を学習してきたのか！」と、どやされたものでした。

さて、卒業を控え、どんな会社を受けるべきかと迷うも、経済学部 1F の学生課の張り紙に、ある地方の会社が海外取引開始で大卒大募集と宣伝あり。「これはオモロそう」。「時井、そんな会社やめとけ」と友人たちに説得されるも、思い切って受けたら合格。早速、新設の「国際部」に配属され、初日から「海外の会社と代理店契約を結びたいので、英文契約書を作成せよ！」と上司に言われた。ところが、会社には参考になる本も書類も皆無。これには難儀したものです。

そして、入社 2 年目になると、いきなり元陸軍参謀の社長から「時井君はタイに行き、注文を取って来い。必要なら現地でも拠点を作れ」とのお達し。あまり深く考えずに、軍隊調で「はい、わかりました」と返事。西も東もわからぬ、1960 年春。まだ、海外渡航が許可制の時代に、ボストンバッグひとつでプロペラ機に乗り、台北、香港経由でタイのバンコクに赴任。これから先の話は、別の機会に譲りたいと思います。

そんな次第で、パルモアでの「英語学習」は、私の社会人生活スタートで、それなりのきっかけをつくってくれたと感謝しております。

それから、関西学院大学入学直後、特別奨学金募集の張り紙があり、応募すると首尾よく面接合格＝学費免除。毎年更新で、4 年間学費を払うことなく、関西学院には大変お世話になりました。

【1958 年経済学部卒業】



『学院史編纂室便り』第 56 号 (2022 年 11 月 25 日)  
関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155  
TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462  
<https://ef.kwansei.ac.jp/archives> (日本語)  
<https://global.kwansei.ac.jp/archives> (英語)